

平成 30 年度

自己点検・評価書  
(学校評価報告書)

附属平野小学校

## 1 附属平野小学校の現況

### (1) 学校名

大阪教育大学附属平野小学校

### (2) 所在地

大阪市平野区流町1丁目6番41号

### (3) 学級数・収容定員

18学級(1学年3学級) 収容定員630人(1学級35人)

### (4) 幼児・児童・生徒数(3月1日現在)

621人(男子310人・女子311人)

### (5) 教職員数(3月18日現在)

校長(併任) 1人、副校長 1人、主幹教諭1人、教諭 25人(うち、栄養教諭1人、任期付教諭1人、任期付き栄養教諭1人)、非常勤講師 4人、スクール・カウンセラー 1人  
事務職員 4人(非常勤1人、事務補佐員3人、臨時用務員(用務員)2人、臨時用務員(調理師)4人)

## 2 附属平野小学校の特徴

本校の特徴は、一人一人が自立し、生涯にわたって自ら学び続け、周りの人と協力しながら、最後までねばり強く、未来をそうぞう(想像・創造)する力を備えた子どもを育成することにある。

そのために、「確かな学力」を培うとともに、自他を尊重し、多様さを認め合い、自他の生命を尊ぶ「豊かな人間性」を育むことが必要であり、教職員・保護者・地域の連携によってその育成を実現していく学校である。

## 3 附属平野小学校の役割

- ① 義務教育学校として、児童の心身の発達に応じた初等教育を実践する。
- ② 教育実習の実施校として、教育実習の指導にあたる。
- ③ 教育研究の推進を図るため、大阪教育大学と密接な関係を保ちつつ、実証的な研究を行う。また、教育の成果を発表し、わが国の教育の発展に寄与することに努める。
- ④ 国の「拠点校」、地域の教育の「モデル校」として寄与する。

## 4 附属平野小学校の学校教育目標

「ひとりで考え ひとと考え 最後までやりぬく子」

- 「ひとりで考え」…知的好奇心に基づく主体性

進んで問題を発見し、その解決に向かって深く考えていこうとする自発的な構えをもつ子どもの姿。どのような物事に対しても、そのものにしかない良さ、面白さ、楽しさを見出そうとし、主体的に考え、判断し、知る・発見する・創り出す喜びを体得し、学習の成就感を味わうことのできる子どもの姿。

○ 「ひとと考え」…支え合う協調性

矛盾したり、対立したりする考えを出し合い、みんなで練り上げることからより高い知識を創造しようとする子どもの姿。友だちと力を合わせて考え、人との関わりを豊かにする中で、友だちや様々な人々とともに活動することに喜びを感じ、互いに高め合うことができる子どもの姿。

○ 「最後までやりぬく」…自己実現に向かう創造性

目的・目標を達成するために、様々な工夫を加えながら創造的にねばり強く追究していく子どもの姿。過去の経験に依存したり、お手本の通りに仕上げたりするのではなく、よりよい方法を考え、個性を發揮し、自分なりのものを創り上げていく子どもの姿。

## 5 附属平野小学校の学校教育計画

### 1、一人一人を大切に学習の中で、確かな学力を育成する。

私たちは、「楽しく、充実感のある」授業や教育活動を通して、一人一人の子どもたちの良さや可能性を伸ばしていくことを学校教育の最大の目標としている。そこでは、私たちは、知識や技能を一方的に身につけさせることのみ埋没するのではなく、子ども一人一人を見据え、個性化された学習の中で、一人一人に確かな学力を育成する。

そのために、私たちは、指導理念や指導技術の共有化に努め、一人一人の子どもに応じた指導を進めていく。また、子どもと子ども、子どもと教職員の信頼関係に裏打ちされた「学びの共同体」作りに尽力していく。

### 2、人との関わりの中で、基本的な生活習慣や公共心を身につけさせる。

この数年間、掃除や給食指導をはじめ生活指導上の問題まで「当たり前のことをきちんとする」子どもを育てようという取り組みを進めてきた。この間様々な実証的研究により、生活習慣・規範意識と学力の間に高い相関関係があることが明らかになった。

そこで、今後も、「確かな学力と豊かな心」を身につけた子どもの育成をめざして、基本的な生活習慣や公共心をしっかりと身につけ、生活面でも真に自立した子どもを育てていく。そして、人との関わりの中で、自分自身を評価し、他者の評価を真摯に受け止め、よりよい自己を創り上げていこうとする子どもを育てていく。

### 3、保護者や幼稚園・中学校・高等学校・特別支援学校並びに地域・大学との連携を深める。

私たちのめざす教育は、小学校の教職員のみで実現できるものではない。よりよい教育は、学校と家庭、地域、他校、大学とのよりよい関係の中でつくられる。

そこで、本年度も本校の教育活動の成果や課題、改善の方向などを広く発信することで、理解を深め、積極的に建設的な協力関係を築き上げていく。また、保護者や地域、幼稚園、中学校、高等学校、特別支援学校、大学との連携を中心に、一人一人の健やかな成長を支えるという視点から「確かな学力と豊かな心」を育成できる理論と実践を明らかにし、様々な地域の教育実践に貢献できるようにする。

6 附属平野小学校の平成30年度 重点目標(評価項目)、具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

評価の基準

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	「ひとりで考え ひとと考え 最後までやりぬく子」
学校教育計画	1、確かな学力の育成に資するバランスのよい教育課程を編成し、実施するための研究活動の最適化 (①教育課程・学習指導、⑦組織運営、⑧研修、⑩施設・設備) ・文部科学省研究開発学校・研究主題「未来を『そうぞう』する子ども」の育成を追究する中で、新教科「未来そうぞう科」を軸とする教育課程を編成する。 ・パナソニック教育財団・実践研究助成・特別研究指定校・研究主題「子どもが主役になる次世代の学び—BYOD 社会に対応するスマートデバイスの効果的な教育的利用—」を追究する中で、ICT活用教育の授業実践を集積する。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) 確かな学力の育成に資するバランスのよい教育課程を編成し、実施する (①教育課程・学習指導)	ア. 未来を「そうぞう」する子どもの育成に向けた、新教科「未来そうぞう科」を軸とする教育課程を編成する。	運営指導委員長として本学の木原俊行先生、委員として慶應義塾大学・鹿毛雅治先生、関西学院大学・佐藤真先生、和歌山大学・豊田充崇先生、本学の金光靖樹先生・佐久間教史先生による指導、また各教科・領域の指導助言の先生方からの指導を受けながら、「未来を『そうぞう』する子ども」を育成する理論、および、各教科論と、それらに基づく授業実践、ならびに研究授業を実施した。 また、研究発表会を開催し実践提案を行なった。新教科「未来そうぞう科」を含む各教科領域等について指導助言者や参会者からの意見を得たり、甲南女子大学・村川雅弘教授やお茶の水女子大学附属小学校・片山守道先生、運営指導委員の先生方によるシンポジウムで示唆を得	特になし。	A	研究開発学校としての様々な提案をすることができ、参会者の方々から高い評価を得ている。	A	研究開発学校として先進的な取り組みをするとともに、地域貢献となる汎用性のある提案を行う。

		たりすることができた。					
(2) 確かな学力の育成に資するバランスのよい教育課程に基づく授業づくりの視点と方法を教員間で共有する。(⑧研修)	ア. 研究全体会をはじめとする研究に関する会議・打ち合わせの機会をより多く保障し、開発する教育課程について、その理念・授業像を共有する。	外部からの指導助言者・研究協力員による「指定授業」に加え、「授業を語る会」と名付け、全教員が授業開始から終了まで参観した上で研究協議する機会を設けたり、運営指導委員からの指導を仰ぐための全教員参観による研究授業の機会を設けたりするなど、より確かな共有を図りながら研究を進めることができた。 新教科に関する理念について絶えず見直していく中で、カリキュラム評価に関する観点の明確化の必要性が明らかになった。	未来をそうぞうする子どもに求められる資質・能力、それらの評価のあり方に関する共通理解を進さらに深め、またカリキュラム改善に生かす方策を明らかにする。	B	特になし。	B	
	イ. 「Open-Café」と称して地域貢献のため、若手教員や教員を目指す大学生を対象として公開授業、および、講習会を開催する。	「Open-Cafe」を7月に開催し、若手教員や教員を目指す大学生の方々、約100名が参会し、公開授業、および、講習会を開催した。参会者アンケートで90%の満足度を得た。また、大阪市平野区の小学校教員2年次悉皆研修として位置づけることができた。			A	地域貢献として高い評価を得ている。	A
(3) 確かな学力の育成に資するバランスのよい教育課程を編成できるように組織運営の最適化を図る。(⑦組織運営)	ア. 校務分掌の再編を図る。	研究業務の増加、教員離着任のサイクルの短期化に対応するため、分掌の合併を進め、相互の業務内容について把握・協力できるようにした。	相互の業務把握と業務の効率化を図る。	B	特になし。	B	
	イ. 研究業務の増大による抜け落ちを防ぐための「推進委員会」組織を編成する。	「道徳人権教育推進委員会」「情報機器管理推進委員会」「学力向上推進委員会」の3つの推進委員会による取り組みを進めた。	各推進委員会の課題をより明確にするとともに、取り組みのための時間を保障する。	B	特になし。	B	

(4) 確かな学力の育成に資するバランスのよい教育課程の実施のための施設・設備の最適化を図る。(⑩施設・設備)	ア. ICT教育環境の整備のために、児童用タブレット、指導者用タブレットの整備を図る。	全ての教員が、タブレット端末を活用した授業実践や校務の情報化に取り組むことができた。タブレット端末をより有機的に活用するためのICTインフラを整備することができた。	特になし。	A	ICT推進校として高い評価を得ている。	A	
---	---	--	-------	---	---------------------	---	--

学校教育目標	「ひとりで考え ひとと考え 最後までやりぬく子」
学校教育計画	2、登下校指導、および、人間関係づくりなどの教育活動の最適化を図る。(②生徒指導、③進路指導、④安全管理、⑤保健管理) 共同的な活動を通して得られる、感動や達成感を感じられるような教育活動の場の設定を工夫していくためにも、クラス間、学年間の意見交流を日常的に行えるようにする。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) 学校生活上のルール、マナー、健康安全を、職員と児童で共通理解し、その徹底を図る。(④安全管理・⑤保健管理)	ア. 全校朝会や学年朝会、通学班指導などの時間を通じて、登下校中の安全に関する児童の意識を高める。	全校朝会で登下校のマナー・安全について、校長・副校長・主幹教諭・生活指導部長などが継続的に指導している。PTA たてわり委員会である「安全支援委員会」にて、登下校の安全確保とルール・マナー向上に関する保護者への啓発を強化した。	公共の道路や交通機関など、公共の場での振る舞いについて、さらなる指導ができるように、通学班編成のあり方を改善する。	B	特になし。	B	
	イ. 委員会活動等を通して、児童自らが学校生活でのルール・マナーの改善に取り組めるよう、教員が支援する。	各委員会がそれぞれの委員会の役割に合わせて、活動内容を考え、一定程度取り組みを進めることができた。	委員会相互の連携を図って、子ども自身が気付いた問題、教員が提起した問題について、解決策をそれぞれの役割に応じて考えられるようにする。	B	特になし。	B	
(2) 人間関係づくりに向けて、自他の尊重や学び合いの精神の向上に取り組む。(②生徒指導・③進路指導)	ア. 子ども・保護者とのコミュニケーションを大切に、子ども一人ひとりへの細やかな配慮と、保護者との密な相談・連絡を行う。	「誰がやったのか」「きまりだから守りなさい」という指導ではなく、子どもの思いをしっかりと聞き「なぜそんな気持ちになったのか」「なぜ、そのきまりがあるのか」を考えられるような指導場面が多くなり、教員の意識にも浸透してきている。	子どもの言動の根本にどんな心情・背景が潜んでいるのかに教員自身が思いを馳せ、子どもが自らの内面を見つめられるような指導について機会をとらえて考え合うようにする。	B	特になし。	B	

	イ. Q-U調査結果の活用について研修会を実施し、教員相互の意見交換などにより、学級経営の改善を図る	「Q-U」の活用について理解が進み、学級経営の改善に生かすことができてきた。		A	特になし。	A	
--	--	--	--	---	-------	---	--

学校教育目標	「ひとりで考え ひとと考え 最後までやりぬく子」
学校教育計画	3、PTA活動、および、平野地域との連携の最適化を図る。(⑨保護者、地域住民との連携) PTAたてわり委員会編成を改善し、委員会・サークルの両面でPTA活動を通して平野地域との連携を図る。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) PTA活動・サークル活動と教育活動の連携の新たな可能性を探る。(⑨保護者)	ア. PTA役員の方々を中心として、学校側とPTAの方々の連携をより強固なものにする。	・月一回行われるPTA実行委員会での協議だけでなく、副校長・主幹教諭がPTA役員会議に出席するなど、連携をより密にすることができた。	特になし。	A	特になし。	A	
(2) PTAと平野地域保護者との共同活動に取り組む、(⑨地域住民等との連携)	ア. PTA活動における学校と保護者の共同活動の計画・実施に取り組むとともに、地域との連携も行う。	・地域行事(雪まつり)の開催に向けて区役所や地域連合会と協議を行うことができた。 ・防災・安全について地域行政当局や周辺町会との連携が進み、防災イベント(ひらのBOSAIキャラバン)を開催することができた。	特になし。	A	特になし。	A	

